

第5期第2回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2020年8月31日（月） 午前10時～12時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター ホール

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、
大野浩子、白崎好邦、関村浩、堂前雅史、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、
以上12名

〔欠席者〕 なし

事務局：塩田センター長、田中担当課長、岡田管理係長、高木事業係長、植松担当係長、
鈴木担当係長、中野担当係長、岩田担当係長、三橋主任

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 【1】都公連資料

【2】生涯学習センターの概要

（2019年度教育要覧、2019年度「まちだの学び」より抜粋）

【3】まちだ市民大学 HATS 事業に関する検討の記録

【4】町田市生涯学習推進計画 2019-2023 実績報告

【5】2020 年度開催スケジュールアンケート

【6】運営協議会のリモート開催について

〔参 考〕 【1】全国公民館研究集会 開催募集要項

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・平和祈念事業について、戦争の悲惨な記憶を風化させない、平和の尊さを改めて認識できるように8月6日から10日までの5日間実施。30年以上継続して実施してきた歴史ある事業だが、コロナ対策のため縮小して実施した。昨年に比べ減少したが延515人参加した。
- ・市民大学事業、ことぶき大学事業等について3密を回避した新しい生活様式で後期講座を開始する。また、前期で実施予定だった講座を特別講座として実施している。講座企画に委員も参加いただいた。

（2）東京都公民館連絡協議会について

○白崎委員から資料に基づき報告

- ・コロナ禍の中で集合方式の研究大会等が実施できるか懸念している。まずは話し合いを進め、できない場合は講義内容の資料配布等も検討している。

- ・情報交換はテーマを決めて行った。新型コロナ状況下で「公民館の再開状況」「閉館中どんなことをしたか」「公民館として何ができるか」等

(3) 町田市生涯学習センターの事業概要について

○事務局から資料に基づき各担当職員が説明

- ・生涯学習センターの目的、貸出施設の概要・利用状況等を説明。町田市の貸出し施設の中でも利用率は一番高い。
- ・学習活動の支援として、情報誌「生涯学習NAV I」の発行や学校の「特別教室」の開放等実施。
- ・あらゆる世代の市民を対象とした講座、講演会、イベントなどを開催。今年の生涯学習センターまつりはオンラインで実施予定。
- ・市民大学 HATS 事業は「あなたを励まし、地域を育てる」をコンセプトに、受講者どうしが出会い、相互に学び合い、学習のネットワークをつくることを目指している。通年講座と前・後期別講座がある。今後の市民大学事業のあり方について検討を行うため 2019 年度から「まちだ市民大学 HATS 事業検討委員会」を開催。
- ・公民館事業は「市民提案型事業 講座づくり★まちチャレ」で今年度は 6 団体の講座を準備中。平和祈念事業は昨年度「ヒロシマ」継ぐ展実行委員会」と共催。2018 年度から学べなかった大人を対象とする「まなびテラス」を開催など。
- ・家庭教育支援事業は、主として子育て中の方を対象として、子どもの年齢に応じた講座、親子で参加できる講座、参加者どうしの交流や地域の担い手につながる講座等を実施。
- ・障がい者青年学級は、主に知的障がいのある方に向けた学級で、生きる力、働く力の確保を目標に学習活動をしている。学級生は 160 名で公民館学級、ひかり学級、土曜学級に分かれている。開級式から成果発表会まで年間 16 回実施。2008 年度から 2019 年度に文部科学省の委託事業として「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」などを実施した。
- ・ことぶき大学事業は、「楽しく学んで豊かに生きる」をモットーに実施。一昨年から「まちだ探・探ゼミナール」を図書館と共催で実施している。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・講座ごとの参加人数だけでなく応募状況等数字を知りたい。➡それらをまとめた事業報告書「まちだの学び」2019 年度版を作成次第配布する。

(4) 町田市生涯学習推進計画 2019 年度実績報告について

○事務局から資料に基づき説明

- ・町田市生涯学習推進計画は 2018 年度に 2019 年度から 2023 年度までの 5 ヶ年計画で上位計画である教育プランのアクション計画として策定した。毎年度、事業実績を公表する。達成状況は評価基準に基づき評価している。日程としては 9 月の生涯学習審議会、10 月の定例教育委員会で報告し、その後広報する。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・まちだのコンテンツがすばらしくてびっくりした。参加年代を知りたい。20 代の参加はどうか。関心のある英会話入門などもやってほしい。知ってもらうために広報にページを

設けると良い。➡アンケートで任意では年代をとっている。家庭教育支援事業は30代が中心。ことぶき大学は60歳以上が条件。一番多い年代は70歳代。市民大学等一般講座に20代の参加はかなり珍しい。

- ・港区の市民大学に通ったことがある。町田はベットタウンということもあり、そういう方々の参加は難しいと思う。
- ・「取組 3-1 地域の課題解決に向けた学習支援」は評価がDとなっているがなぜか。鶴川地区は大成功の例だと思うので応用して広めていくと良い。キーマンを探すのも一つの例。➡地域連携のパイプ役を地区協議会と考え、それぞれの地域課題や求めていることを聞き進めているが、1年では調整つかず継続予定。鶴川地区は生涯学習センターの活用が明確で、お互いにうまくハマり成功した。それが他地域でも応用できるかという点で難しい状況がある。

【会長】鶴川にはポプリホールがあり、鶴川地区協議会にポプリホールの財団が加盟している。無料貸出や館内にある図書館が特別コーナーを設置し、関係書籍を置き、受講して本を借りるサイクルができている。共に学び合うことによる世代間交流もできている。自由民権資料館や三輪のビジターセンター、小島資料館もあり、潜在的に先生役の方が多くいる。参加して楽しくて繰り返しとなっている。地区協議会にこだわらず、色々な活動をしているNPO法人と連携するのも一つのかたちと思う。

- ・ひきこもりや不登校の講座の実施日時を知りたい。相談も多く、長い期間、子どもや親とやり取りしている。働いている親も多く、土日なら子どもを預けて参加できるため。➡ひきこもり当事者を対象とした「ひきまち」という事業を2018年度まで実施していたが、2019年度から団体主催事業に変更した。2018年度に「ひきこもる心を理解する講座」を、まちチャレでも実施した。
- ・子育てサイトに掲載している事業の利用状況を知りたい。➡家庭支援事業等を11本作成し、現在公開している5本のアクセス数は358件あった。
- ・コロナ禍で行政が全滅したときに地域の力を感じた。現在自治会長をしているが、祭も全て無くなった中でシングルママを集めて夏休みに花火大会を行った。こういったことができる関係をつくれるような地域にしていくために、生涯学習センターでキーマンを育てていき、その方たちが地域で活躍できるような、仕組み、支援をしてほしい。

2 議 題

(1) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

○事務局から第1回で説明した内容を再度説明。

【会長】 本日は自由に意見交換したい。3回目から具体的に話し合いたい。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・前年度から話をしているNAVIについて、高齢者などはアナログなので、その辺も配慮してほしい。

- ・頂いた子ども向けチラシを先週末に行った統括コーディネーターの集まりで知らせた。お知らせする手段として、興味のある方はネット等で検索するが、「どんなことをしているのだろう」程度だと、中々そこまでたどり着けないで終わってしまう。色んな世代の方がいるので、オンラインも良いが一方ではチラシなどの紙ベースも必要と考える。

【会長】町内会では今、回覧板が止まっている。情報が届きにくくなっている。

- ・一つの提案だが広報の中にQRコードを入れると良い。NAV Iより広報の方が安いのではないか。

【会長】広報の周知手段は？

▶新聞折込が基本、公共施設や駅に置いてある。シルバーセンターに配布してもらうこともできる。QRコードを入れることは可能。施設案内などを入れている部署もある。広報は期日のあるものを優先して掲載している。

- ・大学では、「リモートでしか授業をやらないのになぜ、通常の授業料を払わなければいけないのか」ということが言われているが、新型コロナに対する大学の考え方がデータとしてマスコミに出てきていない。コロナはまだ終息していないので、この状況を整理・判断すべきと考える。大学は開催しないのに市民大学は開催するのに疑問が残る。

【会長】生涯学習センターのあり方そのものについて、アフターコロナの中で話し合うことも必要なのではないかと前回は意見をいただいた。生涯学習審議会でも積極的に議論している。我々も今までと同じような社会情勢には戻らないというところで議論する必要があると考える。

- ・他市の公運審委員をしているときに利用者や市民の方に報告し、意見を聞くことをしてきた。利用者の方に協議会で議論していることに関心を持ってもらい、意見を沢山言ってもらえるようにしてほしい。

3 その他

(1) 2020年度開催スケジュールについて

○事務局から説明。毎月の基本となる週・曜日を定めるためアンケートを取りたい。

(2) 会議のリモート開催について

○事務局から説明。前回取ったアンケート結果など資料に基づき説明。生涯学習センター内にメイン会場を設定し、集合形式で開催。希望する方はリモートで参加できる。

【副会長】まだ2回目ですが、考えなければいけないことがポツポツ出てきている。ウィズコロナ、アフターコロナ、みんなの経験や知識を持ちより、私たち自身がどのような社会を・生涯学習センターを作っていきたいのか議論を重ねて最後のまとめに繋げていくことが必要。本日の会議で情報が行き届かない家庭にどのように情報を届けるのかという課題が出たが、ほとんどの問題は元々社会が持っていた課題で、コロナがきっかけで表に出てきた。今まで議論してきたことを汲み取りつつ、新たな問題もみんな議論を重ねていきたい。本日はお疲れ様でした。